

NEWS RELEASE

報道関係社各位

SAKHA DIAMOND Corp.

株式会社サハダイヤモンド

130-0025 東京都墨田区千歳 3-12-7

<http://www.sakha.co.jp>

プロポーズにおける意識調査結果を発表

プロポーズされない悲しい女達の姿が明らかに

—プロポーズに関する男女の意識の大きな違いがあることが判明—

この度、ブライダルリング専門店「バージンダイヤモンド」（運営：株式会社サハダイヤモンド／本社：東京都墨田区／代表取締役：今野康裕）では、「プロポーズにおける意識調査」をインターネット上にて実施いたしました。（実施：2009年3月／対象者：20代・30代の既婚男女合計500名）それにより、最近の動向や男女の意識差が浮かび上がってまいりましたので、本日、その結果をここに発表させていただきます。

「バージンダイヤモンド」では、ブライダルリング専門店として、“エンゲージリング・マリッジリング（婚約指輪・結婚指輪）選びのコンシェルジュサービス”、および“プロポーズ演出を応援するサービス”を展開しております。

それらのサービスを通して感じた、エンゲージリング購入における動向の変化（以下）

- ・ 以前は、男性が女性に内緒で来店・購入、プロポーズの際に女性に贈ることが多かった。
- ・ 現在は、カップルで来店・購入するケースが大多数を占めている。

—に焦点を当て、そういった動向変化の原因を探り、「現代における男女のプロポーズ状況」を明らかにすべく、この度冒頭の調査を実施いたしました。

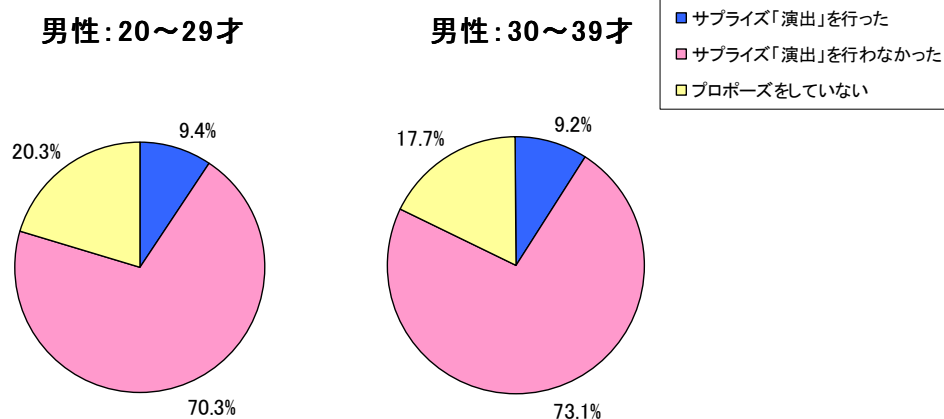
“プロポーズをされない女たち”急増!?

既婚女性の約2割が「プロポーズをされていない」という衝撃の結果に!

サプライズ演出など夢のまた夢???

既婚男性に対し、「あなたはプロポーズをしましたか」をいう質問を行ったところ、“プロポーズはしていない”という回答が19%。

同じく既婚女性に対し、「あなたはプロポーズをされましたか」という質問への回答では、“プロポーズをされていない”と回答した女性が23%にのぼるという結果が出ました。



既婚男性に質問「プロポーズをしましたか」

“プロポーズはしていない”と答えた男性にその理由をフリーワードで聞いたところ、「特にそのような必要性を感じない」（大阪府／27歳男性／経営者・役員）
「はずかしくて…」（愛知県／29歳男性／会社員〈事務系〉）
「二人の関係に必要ないから」（東京都／37歳男性／自営業）などの回答が目立ちました。

また、「（プロポーズの際の）演出の必要性の有無」という質問に対し、“演出は特にいらなと思う”と回答した女性はたったの24%。

反対に、「何の演出もないプロポーズと、男性がその時できる限りの範囲で（サプライズ等の演出を）頑張ってくれたプロポーズとでは、正直、喜びは全く違ったと思いますか？」との質問に対しては、“違った”と答えた女性が75%を占めました。

これらの女性を年代別に見てみると、20代が30%、30代が45%となり、バブル経験世代の女性の方が“プロポーズの際に何か特別な演出を求めている”という、興味深い傾向が浮かんできています。これに対し、“プロポーズの際にサプライズ演出を行った”と答えた男性は、全体のわずか9.3%にとどまるという結果になっています。

“サプライズ（演出）を行わなかった”と回答した男性にその理由を聞いたところ、「何をしたらよいかわからなかった」が33.5%、「そんな考えすら浮かばなかった」が48.1%…という具合に、プロポーズに何らかの演出を望む女性にとっては、その情熱格差が浮き彫りとなる現実が明らかになっています。

プロポーズに関する男性の予算感一本音は「10万円以下」

「プロポーズというものがこれくらいで済んだら良いなという、概念的な予算（指輪代金含む）は？」という質問への回答では、“10万円以下”“お金はかけたくなかった”が最も多く（58.2%）、次いで“20万円以内”（18.2%），“50万円以内”（17.1%）とつづき、“それ以上”と答えた人は全体の6.6%にとどまりました。

「給料3ヶ月分」の話し相場は遥か過去の話。現代の男性には、婚約指輪にはじまりプロポーズの演出等に関しても、お金をかけるという概念は無い傾向にあるようです。

理想のプロポーズ…

“サプライズ的な要素を求める”女性一約 55%、“シンプル・ストレートな言葉のみでOK”な女性一約 40%。

“サプライズ的な要素を入れたい”男性一約 22%、“シンプル・ストレートな言葉のみでOK”な男性一約 63%。

フリーワード回答の「あなたにとって理想にプロポーズとは何ですか」という回答を分析したところ、上記のような結果に分かれました。

【フリーワード回答例：女性】

「レストランを予約し、デザートが運ばれてきた際、そのデザートのお皿の上に“結婚してください”というメッセージがあるとか…ちょっとした驚きと、その時の為に考えたっていう気持ちが欲しい」（京都府／35歳／専業主婦）

「夜景が絶景のロケーションで、美味しいイタリアンとワインを楽しみながらプロポーズをされる。それが海外ならさらに嬉しい」（神奈川県／30歳／専業主婦）

「ストレートに、結婚してください。で十分」（神奈川県／37歳／専業主婦）

【フリーワード回答例：男性】

「二人にとって、一生の思い出に残るようなプロポーズ。ただし、ただ豪華であるとかではなく、両者の性格に合ったものであることが重要。後にその時のことを二人で話したりする時にも、良かったと思えるようなものにしたい」（神奈川県／29歳／会社員〈技術系〉）

「プロポーズなしのさらっと婚約」（兵庫県／38歳／会社員〈技術系〉）

「ありのままの気持ちを伝えれば良い」（東京都／28歳／会社員〈その他〉）

プロポーズに対し何らかのサプライズや演出を理想として抱いているのは、やはり女性の方が多く、男性に2倍近い差をつけました。これに対し、男性には簡素・シンプルを連想とさせる回答が多く、「理想のプロポーズなどは無い」と答えている男性が約15%など、男女の気持ちには大きな隔たりがあることがわかりました。

と同時に、「何か特別なことをするのであれば、リーズナブルに済ませたい」という現代カップルの姿が浮かびあがりました。

それらの意識を象徴するように、冒頭のような現象…「カップルで指輪を買いに来る」つまり、後から指輪を買いに来る。というスタイルが、主流へとシフトしています。

これには、「男性が消極的になり、女性が強くなった」「男性が自分の意思で女性をリードする時代は終わった」など、昨今よく聞く特色が象徴されているのではないのでしょうか。

しかし、男女の意識差を近づける＝女性の不満度を解消し、より幸せな気分になっていただく意味でも、「そんな考えすら浮かばなかった」「何をしたら良いのかわからなかった」という男性の為にも――。

「バージンダイヤモンド」では、これからもより一層、“男性のプロポーズ”を応援するサービスに力を入れていこうという――その必要性を感じる結果となりました。

“きっかけがあれば、プロポーズ文化はもっと素敵になる”そう信じて――。

<調査概要>

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・対象者：20～39才、既婚男女個人 合計500名・エリア：東京、神奈川、千葉、埼玉、大阪、京都、兵庫、愛知・調査手法：インターネット調査／期間：2009年3月27日（金）～2009年3月28日（土） |
|--|

<本件に関するお問い合わせ先>

株式会社サハダイヤモンド ブライダルジュエリー事業部 亀井・西山（電話：03-3846-2097）